

# 令和6年度 学校評価

■ そう思う   
 ■ どちらかといえば、そう思う   
 ■ どちらかといえば、そう思わない   
 ■ そう思わない   
 ■ わからない

(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		考察
<b>1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進</b> 学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。 (感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にすること、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など)	<b>2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進</b> 学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。	1 においては、肯定的評価が保護者83%、児童90%、教職員が92%であった。児童に寄り添った取り組みの成果ともいえるが、不十分と捉えている児童保護者の存在に目を向け、教職員一人一人の人権意識を向上させ、活動を推進していく。 2 においては、児童の肯定的評価が三者の中で最も低い(73%)。児童が学習に興味を持ち、自分で考え、その楽しさを実感できるような授業づくりに取り組んでいく。
(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		
<b>3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進</b> 学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりすることの育成に、取り組んでいると思いますか。(児童会・生徒会活動、学校のまわり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイスライ(中学校)など)	3 においては、肯定的評価が保護者90%、児童52%、教職員が96%であった。児童と教職員との意識の差(44%)を分析し、取組を見直すことが急務である。	
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
<b>4 5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実</b> 学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。	学校は、こどもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていると思いますか。	4 においては、肯定的評価が保護者82%、児童73%、教職員が81%であった。一斉指導と個別指導のメリハリをつけ、児童が主体的に取り組む授業づくりに取り組んでいく。 5 においては、肯定的評価が保護者89%、児童78%、教職員が95%であった。児童の言語能力やコミュニケーション力の育成を強化し、自信をもって学びに向かえるような研究を継続していく。
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
<b>6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実</b> 学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。	<b>7 インクルーシブ教育の推進</b> 学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。	6 においては、肯定的評価が保護者83%、児童85%、教職員が100%であった。教職員は全力で温かい雰囲気づくりに努めている。否定的評価の児童保護者に目を向け、コミュニケーションを図る必要がある。 7 においては、肯定的評価が保護者86%、児童82%、教職員が86%であった。個別支援、自己決定的場づくり、協力的な環境づくりにおいてさらに力を入れていきたい。

(3) 最適な教育環境の整備		
8 安全・安心な園づくりの推進	9 地域や家庭と連携した教育環境の整備	
<p>学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。</p>	<p>8においては、肯定的評価が保護者85%、児童89%、教職員が100%であった。教職員は全力で安心安全な環境づくりに努めている。否定的評価の児童保護者に目を向け、改善を図る必要がある。</p> <p>9においては、肯定的評価が保護者80%、児童84%、教職員が90%であった。学級・学校便り、「すぐ〜」、各種会合等においてさらに連携を深めたい。</p>

(4) こどものいのちと権利の擁護		
10 こどもの最善の利益を守る環境づくり		
<p>学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。</p>		<p>10においては、肯定的評価が保護者82%、児童68%、教職員が91%であった。児童と教職員との意識の差（23%）を分析し、相談体制を見直すことが急務である。</p>

独自項目		
独自項目1	独自項目2	
<p>学校は、学校目標「気づき、考え、行動する」に向けて取り組んでいますか。</p>	<p>学校は、「あいさつ、合図、あとしまつ」ができていますか。</p>	
		<p>1においては、肯定的評価が保護者86%、児童86%、教職員が86%であった。否定的評価に目を向け、改善を図る必要がある。</p> <p>2においては、肯定的評価が保護者80%、児童91%、教職員が81%であった。児童への継続的な取り組み及び習慣づけを行う必要がある。</p>
<p>学校は、「話をしっかり聞く」ことができていますか。</p>		<p>3においては、肯定的評価が保護者84%、児童78%、教職員が56%であった。児童・保護と、教職員との意識の差が20%以上ある。理想像や目標の共通理解が必要である。</p>

### 来年度の具体的な取組について

- 学校教育目標については、引き続き児童、家庭、地域に対して情報発信を行う。
- 主体的に考え行動する力を育むために、児童が学習において「自分（たち）の力で解決した」と思えるような授業づくりを目指し、研修を行う。また、学校行事その他の活動においても「自分（たち）でやり遂げた」という達成感を味わえるような取り組みを行う。
- インクルーシブ教育について職員の理解を深め、対応力を高める。学級・学校便り、PTA新聞、諸団体会合などの機会を通して情報発信も行う。学校、家庭、地域が一体となって取り組んでいく。
- 年2回の教育相談や、月毎の「絆アンケート」を工夫し、児童が出すサインに対して高いアンテナを張る。SC、SSW、心のサポート相談員、各種外部機関等の周知を複数回、定期的に行う。

### 小中学校関係者評価

- 子どもが学校好きになるような雰囲気作りが感じられる。子どもの目線に下がって対応されているのが伝わってくる。
- 児童主導で学習を進めている授業が見られた。素晴らしい雰囲気であった。
- 上級生と下級生の交流がよくできている。他学年の子どもの様子をよく話している。
- 運動量の豊富な体育の授業をお願いしたい。ゲームやスマホの普及で、学校から帰っても体を動かさなくなっているようである。
- 先生方の働き方改革を一層進めてほしい。